

柔道衣検査の規定変更に関する調査研究

広島国際大学保健医療学部臨床工学科
瀬川 洋

キーワード：柔道衣、柔道衣検査、試合審判規定

序論及び目的

講道館柔道において用いられている柔道衣は、嘉納治五郎によって開発された。

柔道の投技には「崩し」「つくり」「掛け」の原理があり、これは柔道衣の特徴である「たるみ」があることで、スムーズな体捌きができることで原理に即した投技が施される。

しかし近年、柔道の試合では相手に有利に組ませないために、柔道衣を改良したり、袖口が小さい柔道衣を着用したり、襟が分厚い柔道衣を着用する者も増えてきた。³⁾

国際柔道連盟(以下、IJF)や全日本柔道連盟(以下、全柔連)はお互いが組んで技を掛け合う「ダイナミック柔道」を推奨するため、柔道衣の大きさや硬さに規定を設けている。

IJFが規定している国際柔道連盟試合審判規定では1990(平成2)年に長さも太さもたっぷりとしたものへ変更する大幅な改正が行われた。¹⁾全柔連が規定している講道館柔道試合審判規定も1996(平成8)年に国際規定に追いつく形で同じ規格に統一された。²⁾

どちらの規定においても、「試合前には審判員や指定の係員により柔道衣検査を行い、試合者が適していない柔道衣を来ている場合は着替えさせることを命じなければならない。また準備できない場合は相手に「棄権勝」が与えられる。」とされてきた。⁴⁾

1999年(平成11)年バーミンガムで行われた世界柔道選手権大会では、試合前の柔道衣検査において、39人もの選手が規定に合っていない柔道衣を着ており、取り替えを命じられている。⁷⁾

ところがIJFでは2008年10月に行われた審判委員会において突如、柔道衣検査の責任を選手自

身に行わせる試合審判規定の改正を行なった。⁵⁾

それに伴い全柔連でも2009年3月の理事会・評議員会決定事項において、「2009年4月より高校生以上の試合において、選手自身が試合前に新たな柔道衣測定器によって柔道衣が規定にあっているかどうか検査しなければならない。試合の途中で審判員から疑義をもたれて測定され、規定に達していない場合には「反則負け」が与えられる。」との改正を行なった。⁶⁾

2011年4月には全柔連より主催大会における柔道衣規格の取り扱いにおいて、製造業者に生地などの統一を行い、IJFマークのついた合格品のみ使用を認めるという改正を行なった。⁸⁾これにより柔道衣の硬さによって掴みづらいという不公平は改善されたが、大きさの検査自体には言及されておらず、相手に組ませないために小さい柔道衣を使用している可能性は否めないと言える。

筆者は、柔道の本質という観点からも、規定がある以上、自己責任のような曖昧な方法にしておくよりも、以前のように審判員や指定の係員が従来通り行う方が公平であり、選手自身の混乱を避けることになると考える。

本研究では、今回は高校生を対象とし、選手自身に大会時における柔道衣検査に関するアンケート調査を行なうことにより、今後の規定改正に関する研究の一助とすることを目的とした。

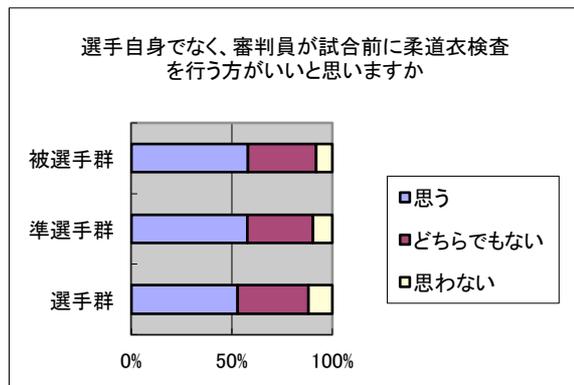
研究方法

2010年12月に行われた柔道高校錬成大会に参加していた高校生を対象とした。配布枚数320枚に対し回収枚数126枚(回収率39.4%)そのうち無効回答を除く有効標本数120枚を対象とした。

集計方法は単純集計を行うと共に、競技レベル別に全国大会出場以上を選手群、県大会ベスト 8 以上を準選手群、それ以下を被選手群とし、競技レベルにおいて差があるかを検証した。統計処理には SPSS11.0 を用いてカイ 2 乗検定を行なった。統計的有意水準は 5%未満とした。

結果及び考察

「選手自身でなく、審判員が試合前に柔道衣検査を行う方がいいと思うか」という項目に対し、「思う」と回答した者が 68 名 (57.1%) あり、「思わない」と回答した者 11 名 (9.2%) を大きく上回った。競技レベル間に有意な差は見られなかった。検査を自己責任にするのではなく、審判員や公式の係員が行うことが公平であり、選手自身も納得した状態で大会が運営されることが推察される。また、「試合中に検査されるのではないか」という不要な心配も回避されることが考えられる。

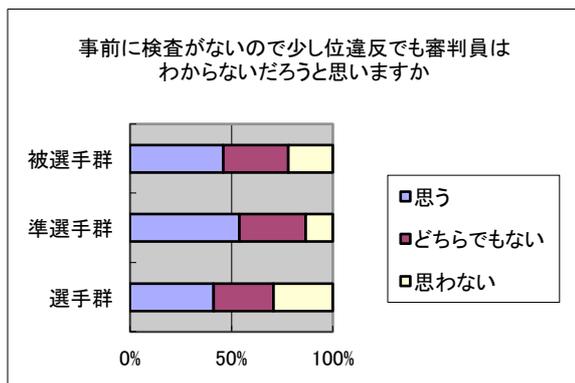


カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確立 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	6.769	6	.343
尤度比	7.784	6	.254
線型と線型による連関	.435	1	.510

「事前に検査がないので少し位違反でも審判員はわからないだろうと思うか」という項目に対し、約半数の 58 人 (48.7%) が「思う」と回答だった。競技レベル間に有意な差は見られなかった。正式な柔道衣検査を行わないことにより、審判員の目をごまかせる、試合が始まってしまえば審判員は調べたりしない、などの心理が働く可能性が推察

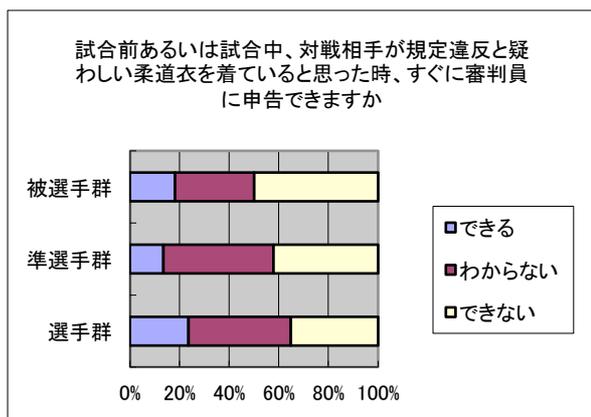
される。



	値	自由度	漸近有意確立 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	2.704	6	.845
尤度比	2.689	6	.847
線型と線型による連関	.000	1	.985

カイ 2 乗検定

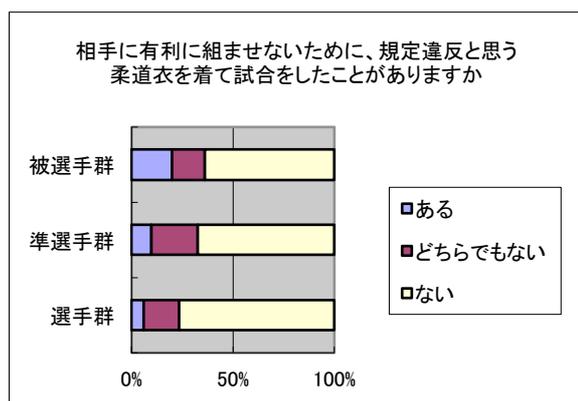
「試合前あるいは試合中、対戦相手が規定違反と疑わしい柔道衣を来ていると思っても、審判員に申告できるか」という項目に対し、99 名 (83.2%) が「できない」「わからない」という回答だった。競技レベル間に有意な差は見られなかった。試合の直前、始まってからでは試合自体に集中しており、違和感があるので検査して欲しいと申し出ることは困難な状況であることは容易に推察できる。また、もし検査をしたとして、違反でなかった場合の気まずさ、恥ずかしさなども理由の一つと推察される。



カイ 2 乗検定

	値	自由度	漸近有意確立 (両側)
Pearson のカイ 2 乗	2.766	6	.838
尤度比	2.766	6	.838
線型と線型による連関	.615	1	.433

「相手に有利に組ませないために、規定違反と思う柔道衣を着て試合をしたことがあるか」という項目に対し、16名（13.4%）が「ある」という回答だった。競技レベル間に有意な差は見られなかった。全体的に僅かではあるが、やはりそのような行為を行う者は少なからず存在することがわかった。また「ある」という回答を性別で見ると男子が8割を占める結果であった。



カイ2乗検定

	値	自由度	漸近有意確立 (両側)
Pearson のカイ2乗	4.261	6	.641
尤度比	4.292	6	.637
線型と線型による連関	2.248	1	.134

まとめ

本研究では、選手自身に柔道衣検査に関するアンケートを行い、今後の規定改正に関する研究の一助となることを目的とした。

今回の調査から以下のことが示唆された。

- ① 選手自身ではなく、審判員（あるいは係員）が検査をしたほうがよいと思う意見が比較的多く見られた。
- ② 事前に検査がないことで審判員の目をごまかせると考える意見が比較的多く見られた。また、対戦相手が規定違反だと思われる柔道衣を着ていても、試合が始まってから審判員に検査の申告をすることは難しいと思われる意見が比較的多く見られた。
- ③ 相手に有利に組ませないために規定違反と思う柔道衣を着用したことがある者が少なから

ず見られた。

これらのことから、柔道衣検査は選手の責任にせず、公平な立場である第3者が行う方が望ましいことが示唆される。

特に、相手に有利に組ませないために、規定違反の柔道衣や改造した柔道衣を着て試合をすることは、柔道の本質を揺るがす問題である。

IJFでは、2011年世界選手権において再び試合前に係員が柔道衣測定器を使って、柔道衣検査を行っており、多数の違反者が出たという報告もある。⁹⁾国内でも行う方向に進むかもしれないが、いずれにおいても正式な改正は行われていない。

今後の検討課題としては、

- ① 体型や階級などで、全てを統一した基準に完全に合わせることは難しい。試合審判規定をさらに検討する必要がある。
- ② IJF 審判委員会において、どのような理由の元に改正が行われたか明らかにされていない。当時の資料を元に試合審判規定の改正方法についても検証する必要がある。
- ③ 今回は選手側の調査であったが、今後は審判員にも調査を行い、さらに検討する必要があると考えられる。

参考、引用文献

- 1) 近代柔道 10月号（1989）「柔道衣はこう変わった」, P52-53, ベースボールマガジン社.
- 2) 近代柔道 8月号（1996）「国際ルールに近づいた講道館ルール」, P48-51, ベースボールマガジン社.
- 3) 尾形敬史、小俣幸嗣、鮫島元成、菅波盛雄（1998）競技柔道の国際化, 不昧堂, P101-102.
- 4) 国際柔道連盟試合審判規定（1994）第3条, 服装、附則, P13, (財) 全日本柔道連盟.
- 5) 「国際柔道連盟（IJF）試合審判規定の一部改正について」（2009）平成21年度審判講習会資料, (財) 全日本柔道連盟.
- 6) 「試合前の柔道衣検査について」（2009）平成20年第2回理事会・評議員会決定事項, (財) 全日本柔道連盟.

- 7) 世界柔道選手権大会「名勝負と感動の記録」
(2011) 第1巻, (財) 講道館、(財) 全日本柔道連盟.
- 8) 「全柔連主催大会における柔道衣（及び帯）ガイダンス」(2011) 全柔連主催大会における柔道衣規格の取り扱いについて, (財) 全日本柔道連盟.
- 9) 「世界選手権大会 大会の裏側で～違反柔道衣について～」(2011), 全柔連便り第43号 P8-9, (財) 全日本柔道連盟